

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 3 月 日

事業所名 はるにれ園

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	グループ編成をし、少人数で過ごしている。	今後も、子どもたちが活動にじっくり取り組めるよう、グループ等の調整をしながら過ごす。
	2 職員の配置数は適切である	100%	0%	お子様が安心して活動に入れるよう職員を配置している。	引き続き、お子様が安心して活動に入れるよう職員配置を検討していく。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	60%	40%	各部屋に視覚的情報を提示している。スロープが準備してある為、必要に応じて玄関などの段差へ設置可能になっている。	今後、様々なお子様に対応出来るよう、更に環境設備等の検討を重ねていく。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	職員会議を密にする事で、日々の業務改善に取り組んでいる。	日々の療育の振り返りや業務改善に、全職員で取り組んでいく。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	保護者向けアンケートや評価表を活用し、意見を把握し、職員間で検討している。	今度もアンケートや評価表を活用し、ご意見等の把握に努めていく。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	ホームページ等で公表している。	引き続き、見える形での公表を続けていく。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	80%	20%	評議委員会や法人監査、監事監を行っている。	第三者の外部評価を基に、より良い療育を目指していく。
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	80%	20%	各職員が研修に参加し、その後情報の共有を全職員で行っている。	引き続き、積極的に様々な研修に参加出来るよう、参加方法の見直しを図る。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	保護者の方から聞き取りをしたり、お子様のアセスメントを行いながら、支援計画の作成をしている。	定期的な面談を設け、お子様や保護者の方のお話を伺いながら、個別支援計画の作成に努める。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	80%	20%	病院から頂いた発達検査・知能検査書類等を参考にし、子どもたちを観察している。	今後もアセスメントツールを活用しながら、療育の中で行動分析等をし、繋がりある支援を行っていく。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	担当職員を決め、活動内容を立案し、全職員で検討している。	担当職員が中心となり、子どもたちが楽しめるプログラムを提供出来るよう努めていく。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	日々のお子様の様子を確認しながら、随時検討している。	今後もベースとなる活動プログラムを基に、日々のお子様の様子を確認しながら、楽しめる活動を提供していく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	お子様の様子を把握しながら、支援をしている。	それぞれに応じた療育が出来るよう、検討していく。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	個々に必要な活動内容を検討し、個別支援計画を作成している。	引き続き、お子様一人ひとりの個別支援会議を設け、計画書を作成していく。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	朝・昼の時間に職員会議の時間を設けている。	引き続き、朝・昼の職員会議を行い、共通理解の基、支援を行っていく。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	朝・昼の時間に職員会議の時間を設けている。	今後も、療育の振り返りを全職員で行い、次回の支援に繋げていけるよう努める。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	支援記録を活用し、必要に応じて支援の検証・改善をしている。	支援記録を基に、より良い療育を提供出来るよう検証・改善
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	計画更新時期を中心に、職員会議を行い検討している。	引き続き、お子様一人ひとりの個別支援会議を設け、見直し等の検討
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせることで支援を行っている	100%	0%	基本活動を組み合わせ、個々に合わせた支援を行っている。	職員間で基本活動の理解を深め、今後の支援に繋げる	

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	療育担当者が、主に参加している。	引き続き、積極的に参加
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	相談支援専門員を中心に、情報共有を行っている。	保護者の方や相談支援専門員を中心に、学校や各事業所との連携に努め、積極的に情報の共有
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	20%	80%	協力医療機関の設定をしている。	今後必要に応じて検討する
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%	サービス担当者会議を中心に、情報共有をしている。	今後も情報共有・相互理解に繋がられるよう、積極的にサービス担当者会議に参加
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%	相談支援専門員を中心に、情報共有をしている。	今後も必要に応じて情報提供
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	80%	20%	センター発信の研修等に参加している。	今後も、専門機関との連携の中で、研修参加や助言等を頂ける関係性を築いていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	20%	80%	送迎時、児童クラブの先生との関係を密にしている。	次年度実施予定
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	80%	20%	子ども部会や事業所部会へ、参加している。	参加方法の見直しをしていく
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	連絡ファイル(だんだん)や口頭にて、保護者の方との関わりを設けている。	連絡ファイル(だんだん)の活用や口頭でのやり取りで、保護者の方との共通理解に努める。
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	20%	80%	ペアレントトレーニングの開催をお知らせした。	必要性を周知した上でお知らせ
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時や日々の療育の中で、丁寧な説明を心がけている。	今後、説明会を設ける等検討していく
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	保護者の方の相談を必要に応じて職員間で検討し、支援を行っている。	定期的に面談の時間を設け、保護者の方に寄り添った支援を目指す。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	保護者会を行う事で、保護者の方同士の交流の時間を設けている。	今後も積極的に保護者の方同士が交流出来る場を設ける
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	苦情担当者が中心となり、対応出来る体制を整えている。	苦情対策チームの明確化をし、保護者の方に周知出来るよう努める
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	お便り発行や、HPの発信を行っている。	今後も定期的にお便り発行やHPを更新し、保護者の方の安心へと繋げていく
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	個人情報の施錠をしている。	今後も、個人情報取り扱い・管理を徹底
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	連絡ファイル(だんだん)や口頭にて、保護者の方との関わりを設けている。	個々に合った情報伝達を検討し、分かりやすい支援を目指す
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	60%	40%	行事への招待は今年は行えなかった。日々の中で、ご近所の方への挨拶等を心がけている。	招待方法の見直し 入りやすい配慮を検討

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	それぞれのマニュアルを、掲載している。	引き続き、掲載しながら、周知していく
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	年間行事で予定している、避難訓練等を実施している。	今後も、避難訓練等を実施する
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	虐待防止研修に、参加している。	今後も研修会に参加し、職員間で情報共有
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	80%	20%	必要に応じて、身体拘束せずに過ごせる方法を検討している。	建物施設の周知
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	60%	40%	アセスメントシートで把握し、対応している。	必要に応じて対応
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	80%	20%	必要に応じて、速やかにヒヤリハットを作成し、共有している。	ヒヤリハットの時間を盛り込む習慣化していく